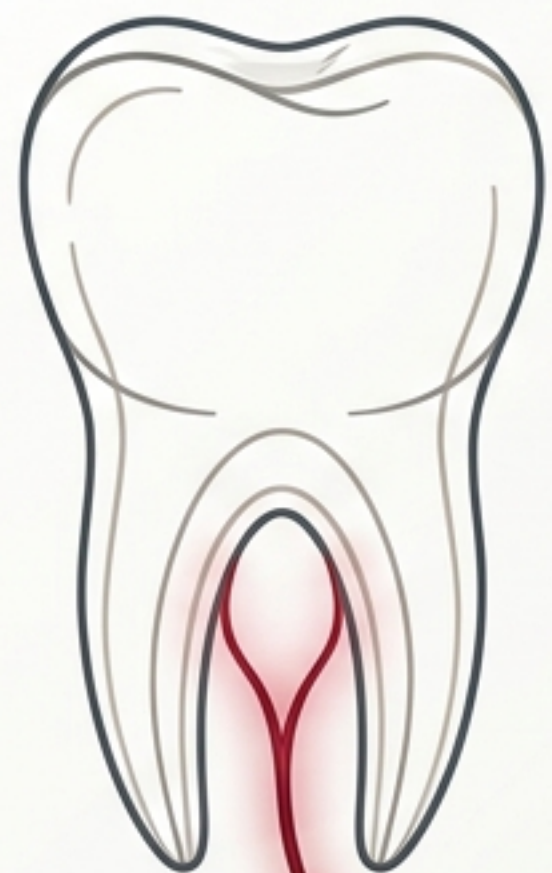
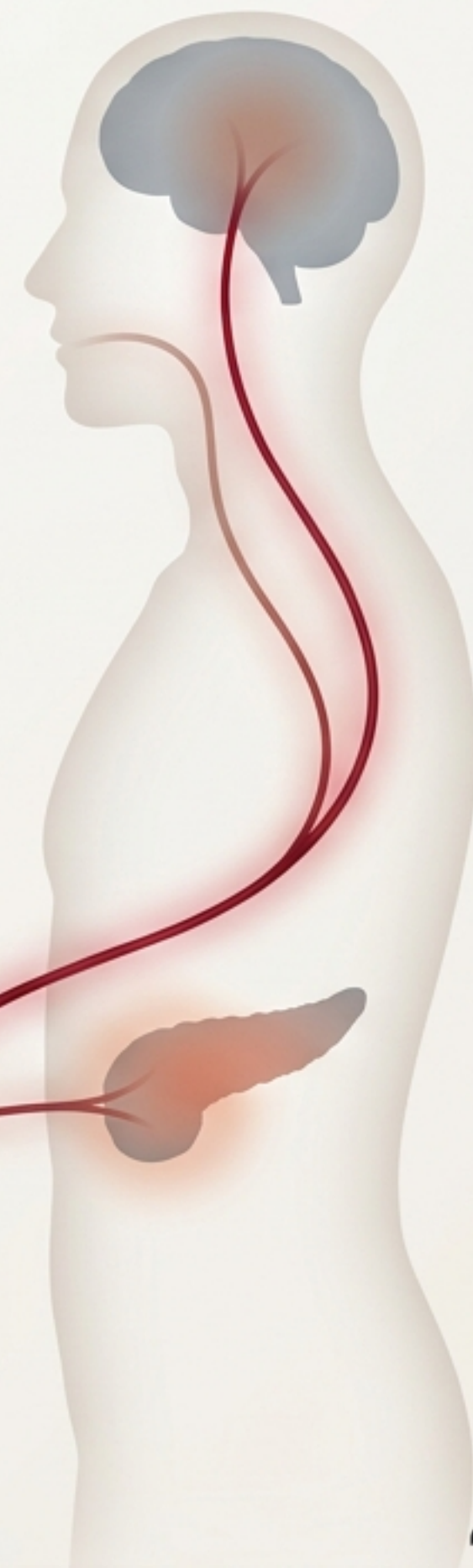


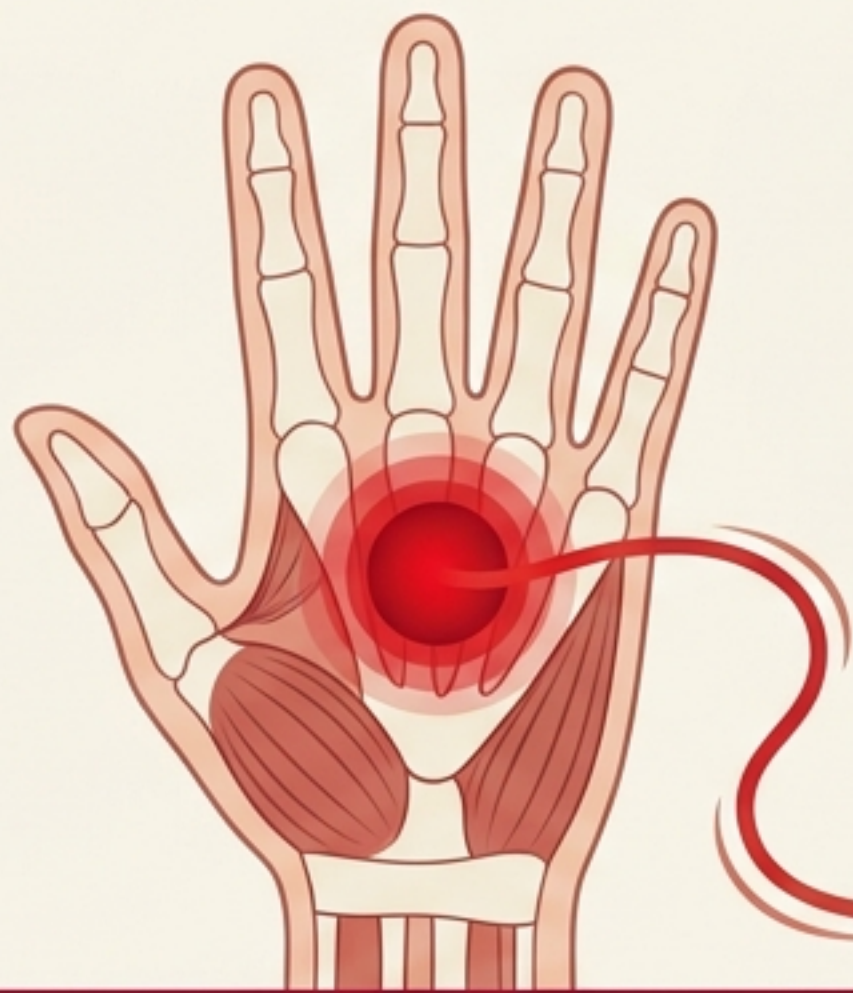


お口の健康が、 全身の運命を決める。

歯周病と糖尿病・アルツハイマー病の
「見えない繋がり」



歯磨きでの出血を、放置していませんか？



手のひらサイズの傷口

もし手のひらから毎日血が出ていたら、
必ず病院に行きますよね？

=



開いた扉

歯周病による出血は、まさにその状態。
全身へバイ菌が絶え間なく侵入する「開いた扉」なのです。

慢性微弱炎症：口の中で起こる「火事」が、全身の血管にダメージを与え続けています。

歯周病は「糖尿病の第6の合併症」



- **医学的真実**：歯周病は単なる「お口のトラブル」ではありません。
- **全身の脅威**：網膜症や腎症に次ぐ、糖尿病の重大な合併症として位置づけられています。
- **負のサイクル**：血糖値が高い状態を放置すると、歯周組織の破壊が急速に進みます。

互いに悪化させ合う「双方向の負の連鎖」



糖尿病（高血糖）は歯周病を重症化させる。

歯周病（慢性炎症）は糖尿病のコントロールを困難にする。

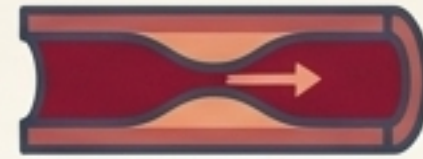
結論：どちらか一方だけを治療しても、この悪循環は決して断ち切れません。

高血糖が引き起こす「お口の崩壊」(上から下へ)



免疫力の低下

白血球の機能低下により菌が繁殖



血流の悪化

微小血管障害により酸素や栄養が届かない



ドライマウス

唾液減少により自浄作用が失われる



AGEs（老化物質）の蓄積：高血糖により歯ぐきのコラーゲンに糖のゴミ（AGEs）が溜まり、炎症が爆発的に広がりやすくなります。組織の修復能力が奪われ、あっという間に歯周病が重症化・難治化します。

歯ぐきの炎症がインスリンを「効きにくく」する（下から上へ）



全身を巡る「2つの侵入ルート」

歯周病の黒幕「P. gingivalis菌（ジンジパイン）」はお口にとどまりません。

A

B

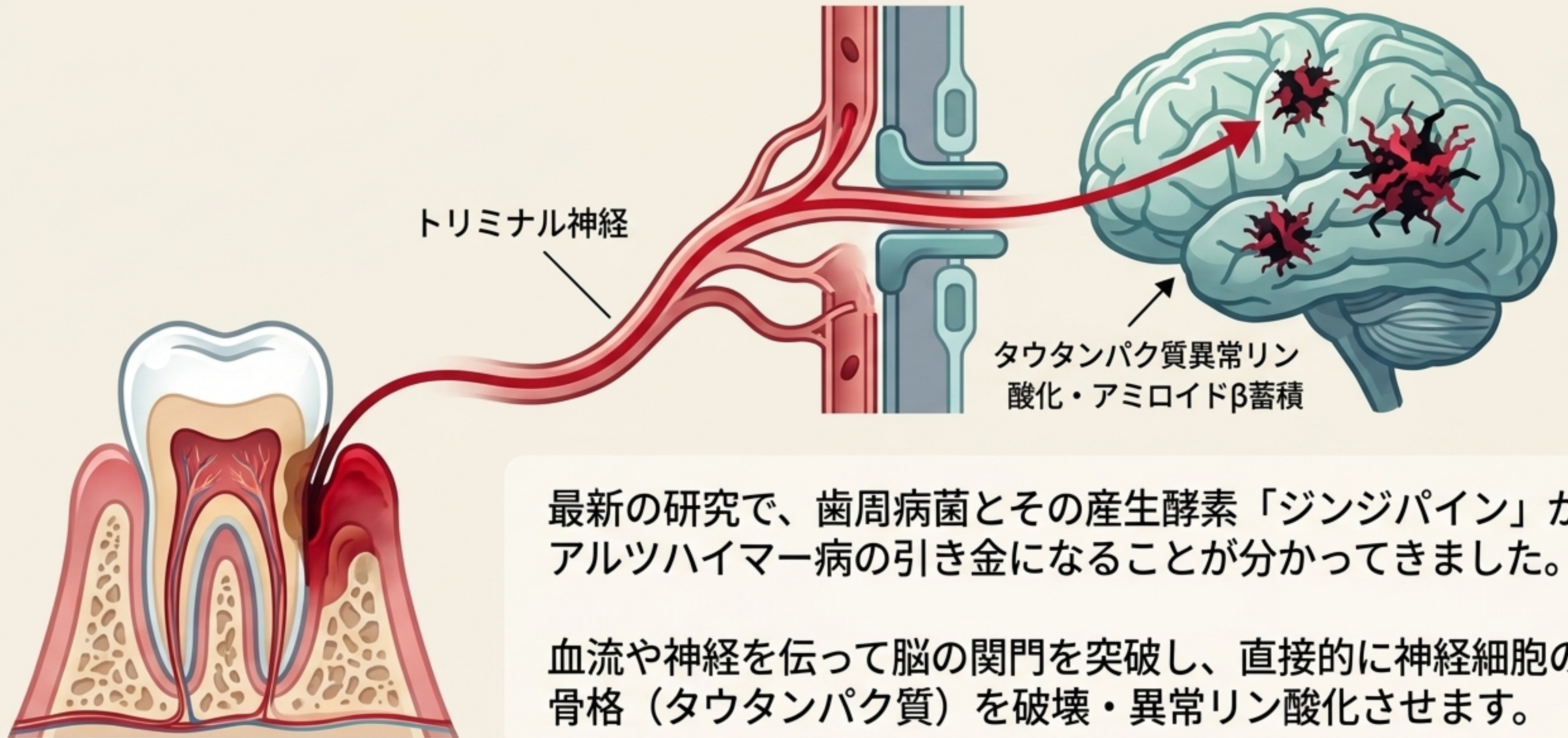
血管から（血流ルート/菌血症）

出血部位から直接血流に乗り、全身の慢性炎症の「司令塔」となります。

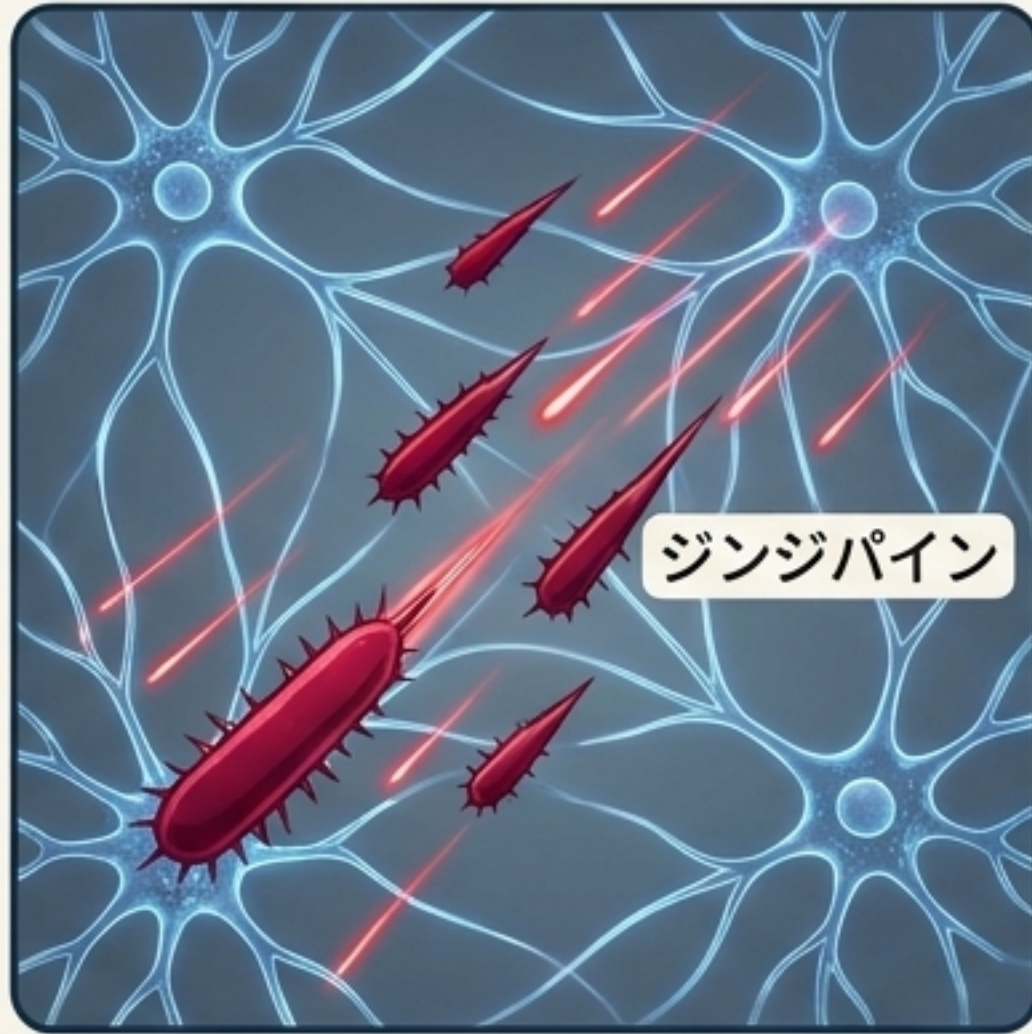
腸から（嚥下ルート/ディスバイオーシス）

唾液と一緒に飲み込まれた大量の菌が腸内環境を破壊し、バリア機能を壊してさらなる毒素を全身にばらまきます。

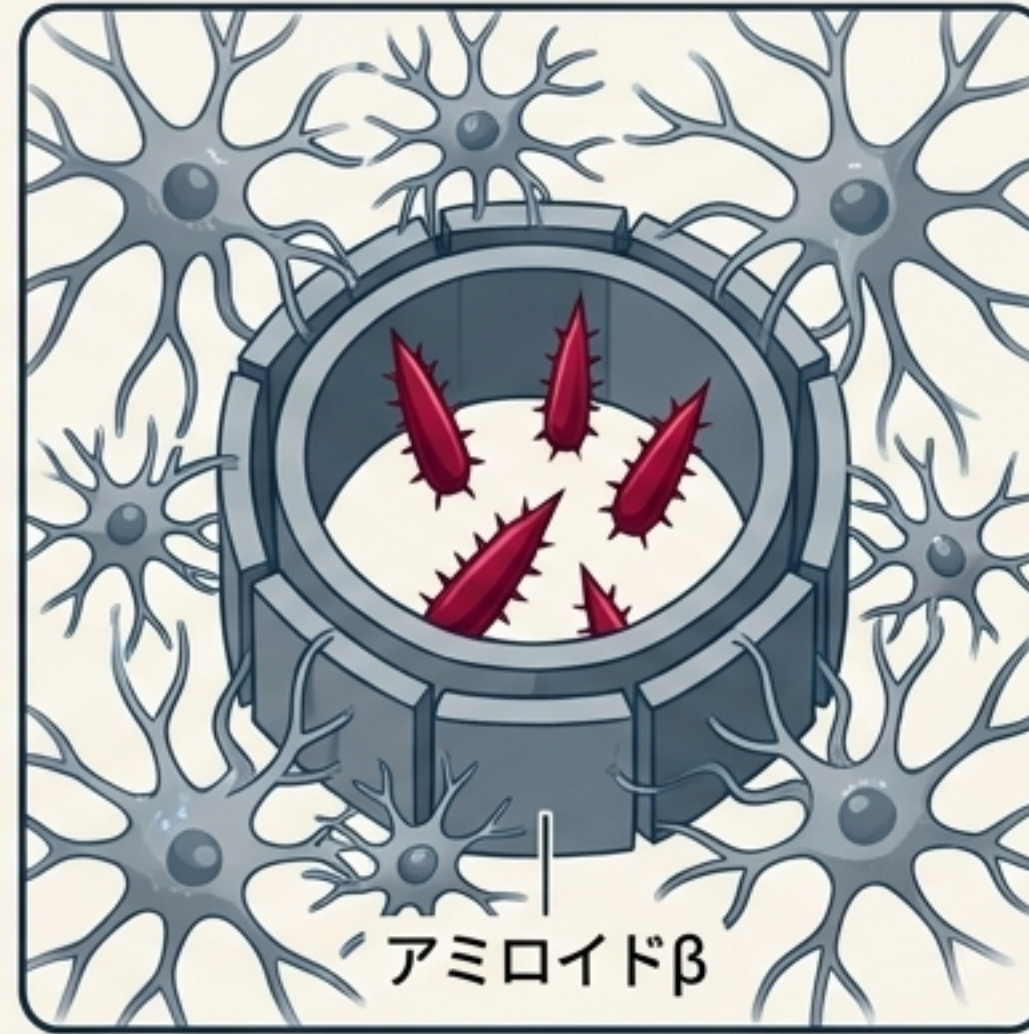
さらに恐ろしい真実。脳へと向かうジンジパイン



脳の防衛本能が引き起こす悲劇（防衛壁の崩壊）



1. ジンジパイン（歯周病菌）が脳内に侵入する。



2. 脳細胞が菌を閉じ込めるため「アミロイドβ」という防御壁を作る。



3. 感染が続くと壁が巨大化し、正常な脳細胞を圧迫・破壊してしまう。

アミロイドβの正体: 脳に溜まる「アミロイドβ」はただのゴミではなく、実は侵入した歯周病菌を閉じ込めるための「防御壁」でした。過剰防衛による自滅が、認知機能低下を招きます。

歯科治療が、全身を救う「物理的な防波堤」になる

この絶望的な負の連鎖は、歯科医院での介入（歯石除去やクリーニング：SRP）によって物理的に断ち切ることが可能です。



細胞レベルでインスリンの働きが劇的に回復します。

歯周ポケット内の細菌群を破壊し、血中の炎症物質（TNF- α やCRP）を低下させます。

脳への感染経路を物理的に遮断する、最強の予防医療です。

飲み薬「1錠分」に匹敵する治療効果

HbA1c $-0.4\% \sim -0.7\%$ 低下



複数の臨床研究において、適切な歯周病治療を受けることで、HbA1c（過去1～2ヶ月の血糖値の平均）が平均0.4%～0.7%低下することが報告されています。

これは、なんと「糖尿病の飲み薬1剤分」を追加するのと同じレベルの強力な効果です。

HbA1c改善への「3ヶ月の道のり」

なぜ3ヶ月?: 治療の効果はすぐには数値に出ません。途中で諦めないことが成功の鍵です。



1~4週間後

炎症ストップ

体内では確実に炎症マーカーが下がり始める。



3ヶ月後

効果のピーク

赤血球の寿命の都合上、ここでついに数値 (HbA1c) に表れる。

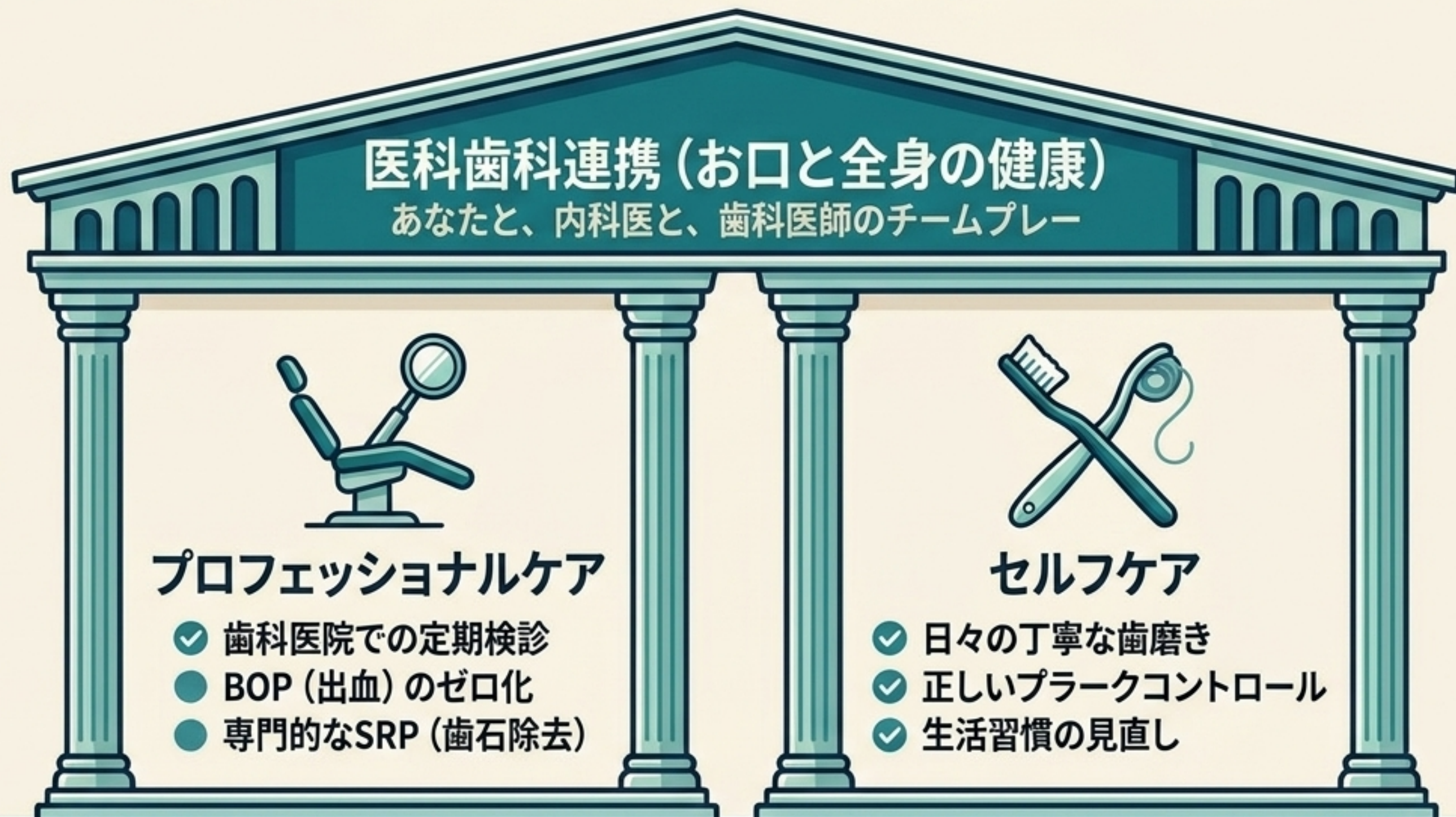


6ヶ月以降

運命の分かれ道

維持 (定期検診) か、再発 (自己中断) か。

脳と体を守るための「両輪」を回そう



まずは歯科医院へ。自覚症状がなくても、今日から「歯周病のチェック」を開始しましょう。